



まごころ通信

「LD」って何？



先日開催された「あいちLD親の会かたつむり」さんの創立30周年記念フォーラムに行ってきました。当事者の方のドキュメンタリーの上映もあり、大変貴重な学びの機会でした。

しかし、このLDという障害は日本では診断されることが少なく、あまり知られていません。そこで今回はLD(学習障害)について少し紹介をさせていただきます。

▼LDとは

LD(学習障害)とは、知的発達に遅れはありませんが、聞く、話す、読む、書く、計算する、または推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す状態を示すものです。例えば、文字を読もうとしても隣の単語と繋がって見えたり、ゆがんで見えたり。漢字を書くと、へんとつくりが逆になってしまったりします。(ディスレクシア)

原因は中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されており、環境的な要因が原因となるものではありません。

知的な遅れはなく、見た目も普通なので通常学級に在籍しますが、上記の困難さゆえに、がんばっているのに「ふざけている、怠けている、努力が足りない」と誤解されることがあります。

世界で活躍されている著名人の中にはLDであることを告白している方も多く(トム・クルーズやスティーブン・スピルバーグが有名です)、適切な支援と周囲の理解が求められています。



「ありがとう、フォルカーせんせい」岩崎書店

LD当事者の方が幼少期の自分について描いた絵本です。彼らのもつ困難さがよくわかり、子どもへの読み聞かせにも活用できます。



ヘルパーだより

NO. 7

平成 15 年 2 月から約 9 年 8 ヶ月の間、ケアに入らせて頂いた独居のAさんが、この 10 月に静かに 98 歳の人生の幕を下ろされました。

「きっとまた、以前のように食事や水分の摂取ができるようになる。」という願いは叶いませんでしたが、長年住み慣れたご自宅で、約 50 日間看取りのケアをさせて頂きました。

Aさんとの意思の疎通はできませんでしたが、近くに住む娘さんご家族の理解のもと、Aさん中心の生活を貫かれ、常に「おばあちゃん、おばあちゃん」と声がけをされ、まるで愛おしいわが子を大きな母の愛で包み込むようなお手本となる看取りをされました。

訪問看護とヘルパーで時間調整を行って毎日訪問し、心休まる静かな音楽が流れる中、清拭やパジャマ交換など、娘さんと一緒に、時間の許す限りAさんの耳元で輝いておられた頃の明るい話をいたしました。血圧や酸素濃度などに異常は無く、一度も苦しむ表情を見せることも無く、それはそれは見事な人生の幕引きでした。

「人として生きること」「人として人生を閉じること」をAさんは身をもって教えてくださったように思います。人生の終末に貴重なお手伝いができたことをヘルパーとしてとても嬉しく誇りに思いました。



ご家族のことば・・・

まごころさん初め、本当にいろいろな方にお世話になり、母との大切な時間を過ごすことができました。母の病気を通して、支えていただいた方々との大切な出会いができました事は、私の一生の宝物になりました。心から感謝申し上げます。

心づれ

ジョークで表される国民性

小島 清孝

EU の本部があるベルギーのブラッセルで加盟各国の国民性をあらわす絵葉書が売られているようで、それには次のように書いてあります。

アイルランド人のようにいつもシラフで
イギリス人のように、料理が上手で、
フランス人のように、いつも謙虚で
イタリア人のように、秩序を重んじ
ドイツ人のように、ユーモアを解し
オランダ人のように、気前がよく
ベルギー人のように、勤勉で
デンマーク人のように、思慮深く
スウェーデン人のように、柔軟で
フィンランド人のように、饒舌で、
スペイン人のように、慎み深く
ポルトガル人のように、科学技術に秀で
オーストリア人のように、忍耐強く
ルクセンブルグ人のように、有名で
ギリシャ人のように、組織化されている。



もちろんこれは、それぞれの国民性の逆を表現しているわけです。この皮肉に対して目くじらをたてて怒る人はどの国にもいないようです。軽く笑って受け流す心の余裕があるのでしょう。

日本人に対してはどのようなのでしょうか。「日本人のように、自己主張と独自性が強い」とでもなるのでしょうか？日本人一般に対する外国人からの好意的評価としては周囲に気を使い「和」を尊ぶ協調の精神に優れているということの逆説的表現です。しかし過剰に周囲に気をつかうあまり自己を抑制しすぎることは精神衛生上よくないときも間々あります。快適な生活を送るにはなによりも自由が大切です。ユダヤ教には一週間に一度の安息日をとる教えがあるように、ときには日常から離れた環境に身をおくことも必要でしょう。各国の国民性の両面にそのヒントがあるようです。

ミニデイだより



秋の避難訓練

日に日に秋も深まり、まごころ広場でも窓を閉め切る季節がやってきました。

まごころでは靴を脱いでご自宅と同じ様に靴下で過ごして頂いていますが、今年から床暖房がついたので、足元からぽかぽか！皆さんからは「温かいわ〜」と大好評です。

今年も年に一度の避難訓練をしました。大地震の為、建物倒壊の恐れがあるという設定です。皆さん冷静に行動して下さり避難開始から4分ほどで全員が避難することができました。

実際に行動することでいろいろな発見がありました。「やっぱり部屋から靴を履いて出たから安心だったわ」「靴の名札を服に付けると、身分証明になるね」「トイレの中に誰か入ってるか確認しなかった」「火事になったら煙報知器が鳴るわね」などなど。利用者さんにとっても地震という設定は身近に感じられる様です。



ケガ人をシートで運ぶ

切り絵で秋のモビールを作りました

